

No.⑤	分類	2-(1)-ア	資料名	命のきずな	学年	5・6年 共通	関連教科等	道徳科	D-(19) 生命の尊さ
------	----	---------	-----	-------	----	------------	-------	-----	-----------------

# 1 ねらい

- 震災を通して、生命がかけがえのないものであることを再認識する。
- 被災し、避難をしてきた友だちとの交流を通じて、ふるさとを大切に思う人々の思いを知り、助け合って生きていこうとする意欲を高める。

# 2 趣旨

- 震災によって失われた命と、震災後に生まれた新たな命の誕生から、命のバトンについて考える。また、復興途上の過酷な状況にあっても、精一杯生き抜こうとする被災者の姿から、生きることの大切さを問いかける。
- 震災の傷跡が癒えない福島へ帰る家族の気持ちに迫り、ふるさとを大切に思う人々の気持ちを考えさせたい。新しい土地で新しい生活を求める人々と、多くの人や物を失ってもふるさとで暮らそうとする人々の両方の思いを理解させる。
- 震災を経験した神戸と東北地方の人々の交流を知り、今の自分にできることはないかを考えさせる。
- 福島の今の状況を調べ話し合うことで、今もふるさとに帰ることができない人たちや福島に生きる人たちの思いを想像させる。

# 3 配慮事項

- 放射能被害については、正確な情報を得て、判断することが大切であることを伝える。
- 学級に避難してきている児童や被災した親戚がいる児童が在籍する場合は、事前に気持ちを聞いておくなどの配慮をする。

# 4 展開例

学習内容	指導上の留意点
<p>1 東日本大震災の「当時」と「今」について調べ発表する。</p> <p style="text-align: center;">東日本大震災について、調べたことを発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津波の被害が大きかった。</li> <li>・原子力発電所の事故があった。</li> <li>・兵庫県の人がいろんなボランティアをしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 写真や新聞記事などの資料や具体的なデータを用意し、被害の大きさを知ることができるようにする。</li> <li>○ 震災の想起は、子どもたちの実態に合わせて配慮する。</li> <li>○ 阪神・淡路大震災の被害について知らせる。（地域の実情に合わせる。）</li> </ul>
<p>2 「命のきずな」を読む。</p> <p style="text-align: center;">転校してきたころの「ふうちゃん」の気持ちを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を失って本当に悲しい。</li> <li>・避難生活は不安で寂しい。</li> <li>・早く福島に帰りたい。</li> <li>・友だちはどうしているかなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 淡々とつづられている作文の中に、耐え難い思いがあることに気付かせる。</li> <li>○ 「ふうちゃん」に対して、クラスの仲間が気を遣っていたことに気付かせる。</li> </ul>
<p>3 「ふうちゃん」の家族について考える。</p> <p style="text-align: center;">「ふうちゃん」のつらい思いや決意を考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おじいちゃんとおじちゃんがいなくなった悲しみは消えない。</li> <li>・赤ちゃんの命を大切にしたい。</li> <li>・神戸の人たちに感謝したい。</li> <li>・生き残れたことに感謝して元気を出して生きていきたい。</li> <li>・ふるさとで過ごしたいという思い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族の命が失われた悲しみは消えないことや、生まれてくる赤ちゃんのために避難してきたことなどから、命の大切さについて考えさせたい。</li> <li>○ 福島へ帰る「ふうちゃん」の家族の喜びと不安が入り混じった複雑な思いについて想像させ、ふるさとを思う気持ちに迫りたい。</li> <li>○ 帰還困難区域が現在もあり、戻りたくてもふるさとに帰ることができない人たちに思いをよせる。</li> </ul>
<p>4 自分たちにできることは何かを考える。</p> <p style="text-align: center;">「わたし」はどんな手紙を「ふうちゃん」に送ったのでしょうか。</p>	

- ・つらいだろうけどがんばってほしい。
- ・困ったことがあれば言ってほしい。
- ・ふうちゃんに出会えて良かった。
- ・これからもずっと友だちでいたい。
- ・忘れないで思い続けていたい。
- ・将来のエネルギーについて考えたい。

- 正しい情報を知ることや震災を風化させないことが被災地を応援することにつながることを知らせる。
- クラスの仲間の存在が「ふうちゃん」に勇気と元気を与えたことに気付かせる。
- 日本のエネルギー資源の自給率が約12%※であることから、自分の生活とエネルギーとの関係を見直すきっかけとしたい。

※ 日本のエネルギー資源の自給率約12%

経済産業省・資源エネルギー庁「日本のエネルギー2021 年度版「エネルギーの今を知る 10 の質問」」の我が国のエネルギー自給率 2019 年度参照。

## 5 参考

○福島県双葉郡大熊町管内図（令和4（2022）年7月1日現在）（大熊町役場 環境対策課）

<https://www.town.okuma.fukushima.jp/uploaded/attachment/7449.pdf>

○避難指示区域の概念図（令和4（2022）年3月31日時点）（経済産業省）

<https://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/kinkyu/hinanshiji/2022/220331hinanshijigainennzu.pdf>

○「これからどうする？エネルギー」（電気事業連合会）

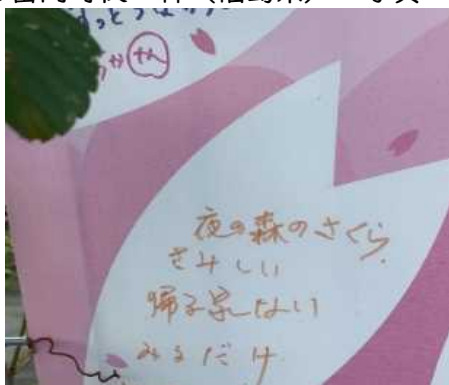
<https://www.fepc.or.jp/sp/pikaru/energy.html>

○「日本のエネルギー2021 年度版「エネルギーの今を知る 10 の質問」」（経済産業省・資源エネルギー庁）

<https://www.enecho.meti.go.jp/about/pamphlet/energy2021/>

○令和3（2021）年8月時点での写真（作成者撮影）

○富岡町夜ノ森（福島県）の写真



○双葉駅（福島県）周辺の写真



○双葉駅（福島県）周辺から一本道を外れると、消防署がそのまま手つかずの建物が残ったままの状況。



○今も残る帰還困難区域の表示と今も除染を続けている除染土の山（福島県）

